

平成30年第1回下仁田町議会定例会会議録第1号（6日）

招集年月日	平成30年3月6日					
招集の場所	下仁田町議会議場					
開閉会日時 及び宣言	開会	平成30年3月6日午前10時00分			議長	堀口博志
	閉会	平成30年3月20日午後0時01分			議長	堀口博志
応（不応）招議員 及び出席並びに 欠席議員 出席12名 欠席名 欠員名 凡例 ○ 出席を示す △ 欠席を示す × 不応招示す	議席番号	氏名	出席等の別	議席番号	氏名	出席等の別
	1	小須田 肇	○	7	佐藤 勇二	○
	2	岡田 邦敏	○	8	千野 榮治	○
	3	永井 正之	○	9	島崎 紘一	○
	4	木暮 弘元	○	10	堀口 博志	○
	5	岩崎 正春	○	11	岡田 武二	○
	6	佐藤 博	○	12	佐藤 公夫	○
会議録署名議員	5番	岩崎 正春	6番	佐藤 博		
職務のため議場に 出席したものの氏名	事務局長	樋口 令子		書記	小井土直也	
地方自治法 第121条に より説明のた め出席した者 の氏名	町長	原 秀男		福祉保険課長	岡野 均	
	副町長	吉弘 拓生		保健環境課長	猪野 馨	
	教育長	茂木 学		農林課課長補佐	佐藤 圭司	
	町長公室長	荻野 英雄		商工観光課長	林 通典	
	総務課長	浅川 幸則		建設ガス水道課長	神戸 宏	
	地域創生課長	岩井 収		教育課長	大河原順次郎	
	住民税務課長	大小原敏江				
	会計課長	(住民税務課長兼務)				

議 事 日 程 別紙のとおり

会 議 に 付 し た 議 件

- 1 会議録署名議員の指名
- 2 会期の決定
- 3 一般質問

会 議 の 経 過

開 会 平成30年3月6日 午前10時00分

○議長 堀口博志 ただいまから、平成30年第1回下仁田町議会定例会を開会し、ただちに本日の会議を開きます。

○議長 堀口博志 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第126条の規定によって、5番 岩崎正春君と、6番 佐藤博君を指名いたします。

○議長 堀口博志 続いて、日程第2、会期の決定を議題といたします。
本定例会の会期については、さきの議会運営委員会で本会議の運営等について協議がされておりますので、その結果について、報告を求めます。議会運営委員長

(島崎紘一議会運営委員長 登壇)

○議会運営委員長 島崎紘一 おはようございます。

議長のご指名がありましたので、議会運営委員長報告を申し上げます。

去る2月27日、午前10時から303委員会室において、議会運営委員会を開催し、本定例会の会期、日程及び議案の取り扱い等の議会運営に関する事項について、協議をいたしましたので、その経過と結果についてご報告申し上げます。

まず、会期につきましては、本日から3月16日までの11日間とし、審議日程につきましては、お手元に配付されている日程表のとおりであります。

本日は、会議録署名議員の指名、会期の決定の後、町長のご挨拶をいただきます。

その後、一般質問を岩崎正春議員が行います。

一般質問終了後から7日にかけて、全員協議会を開催し、今定例会に提案されております第4号議案から第35号議案の細部にわたる説明をしていただき、議場では主に質疑応答をしていただくことといたしました。

8日は、午前10時から本会議を開き、報告第1号を報告の後、第4号議案から第21号議案までの提案者の説明、質疑、討論、採決を行います。

次に、第22号議案から第28号議案までの補正予算及び第29号議案から第35号議案までの当初予算は一括上程し、説明、質疑の後、全予算議案を予算決算特別委員会に付託し、陳情につきましては所管の委員会に付託し、審議をお願いすることに決しました。

9日は、午前10時から予算決算特別委員会を、午後1時から総務常任委員会を開催していただきます。

10日及び11日は、休日につき休会といたします。

12日は、午前10時より予算決算特別委員会を開催していただきます。

13日は、12日に予算決算特別委員会が終了しない場合は、午後1時30分より予算決算特別委員会を開催していただきます。

14日及び15日は、委員会予備日といたします。

16日最終日は、午前10時より本会議を開き、各委員長から委員会審査の報告を受けた後、第22号議案から第35号議案に対しての討論、採決、また陳情の採決を行い、全日程を終了する予定です。

以上、この会期、日程等にご賛同を賜り、円滑な議会運営ができますよう各位のご協力をお願い申し上げまして、委員長報告といたします。

よろしく申し上げます。

○議長 堀口博志 お諮りいたします。

本定例会の会期は、議会運営委員長報告のとおり、お手元の配付の日程表により、本日から3月16日までの11日間としたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 堀口博志 「異議なし」と認めます。

したがって、本定例会の会期は、本日から3月16日までの11日間と決定いたしました。

○議長 堀口博志 続いて、町長から定例会招集の挨拶を願います。町長
(原秀男町長 登壇)

○町長 原秀男 皆様、おはようございます。

平成30年第1回下仁田町議会定例会開会に当たり、ご指名をいただきましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

ことは、まれに見る厳しい寒さの冬でありましたが、日に日に春の訪れを感じさせる陽気となってまいりました。

議員の皆様におかれましては、年度末の何かとご多忙の中、定例会にご参集いただきまことにありがとうございます。

本定例会には、下仁田町固定資産評価審査委員会委員の選任についての人事案件に関する議案、条例改正案等の議案に加えて、指定管理者の指定に関する議案、また平成29年度補正予算及び平成30年度当初予算など、第4号議案から第35号議案までの32議案をご提案申し上げます。

これらの議案は、後ほど担当課長からご説明申し上げます。

案件が多くなりますが、よろしくご審議の上、ご議決、ご承認賜りますようお願い申し上げます。

以上、平成30年第1回議会定例会開会に当たりましての挨拶といたします。

本日は大変ご苦労さまでございます。

○議長 堀口博志 次に、日程第3、一般質問を行います。

通告書に従いまして質問を許します。岩崎正春君

(岩崎正春議員 一般質問席へ)

○5番 岩崎正春 議長のお許しをいただき、一般通告書に従いまして、議席番号5番、岩崎が質問いたします。

まず、町政の展望ということで、来年度予算の重点科目とその展望、また活力あるまちづくりについてお尋ねしたいと思います。

平成28年度予算では51億8,400万、決算額で53億6,883万円に比して、今年度の予算の増減予想、財源確保など、あるいは町長の公約実現のための予算化等、町長のほうからその所信をお伺いさせていただきたいと思います。

その後、財政懸念への対応ということで進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 岩崎議員の質問にお答えします。

平成30年度、この新規事業の主な事業をご説明いたします。

7つ、8つほどなんですけれども、もっとあるんですけれども、重点の新規事業です。

最初に、まず、公約の一部にもありました保育料に関してですが、年収360万円未満の世帯の第一子目の保育料免除ということですが、

これによりまして、二子、三子目は免除となっておりますから、年収360万円以下の家庭に関しましては全部免除ということになります。

また、続きまして、狩猟免許取得等補助金創設、これが2つ目であります。

さらに、農業分野における地域おこし協力隊2名採用ということですが、

また、さらに、六次産業化支援事業補助金の創設、そして諏訪神社前トイレ新築工事、さらに荒船風穴見学者広場整備工事、またジオパーク教材用漫画印刷などを実施していきたいと思っております。

予算額に関しましては、平成29年度の当初予算が51億8,400万円で、今回の補正後の予算が約55億300万円となり、3億1,900万円の増額となっております。

財源内訳といたしましては、国・県補助金が1億1,300万円、町債が2億1,600万円、基金繰り入れが1,000万円の減でございます。

以上です。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 ありがとうございます。

続いて、財政懸念への対応ということで、これは昨年12月12日、予算決算特別委員会の中で、一部組合の経営状況が厳しいという、問題提起とも受けられる発言を機に、町長はさまざまな場面で、この厳しい状況を語られています。

町の町長として、また厚生病院管理者として、この問題に取り組む姿勢をお尋ねします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今、質問の中で、病院管理者という言葉が出てきたんですが、病院管理者と町長は一緒なんですけれども、ここは町議会でありますから、病院管理者としてのお答えはできません。

町長としてお答えさせていただきます。

平成30年度の予算編成におきましては、普通交付税の2.5%程度の減額が見込まれている一方、歳出面では下仁田南牧医療事務組合への負担金や高齢化に伴う社会保障費の増加が予想され、厳しい財政運営を余儀なくされることから、持続可能な財政運営に向け、既存経費の見直し、事務の合理化、

執行方法の改善等、一層の効率化に努めた見積もりも指示しました。

今後も、持続可能な町政運営に向け、既存経費を見直しながら、また合理化、いろんな意味での効率化に努めてまいりたいと思っております。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 これは、先ほども言いましたように、12月12日の予算決算特別委員会の中の質疑の中に、委員の質問に、財調の取り崩し8,100万円のほとんどが病院の支援だと、来年を想定すると、病院の支援は2億円を下らないと思うと、そういう質問に対して、財政係長のほうから、ことしの通常での取り崩しがおよそ1億8,000万あり、追加で8,000万で2億6,000万という状況、来年もこの金額ベースになり、これ以上の取り崩しが必要になってくると想定され、10億から引くと、4年か5年で財調がゼロになると想定されると、こういう答弁をされております。

そこで、町長への発言を求められて、このままいくと5年、そういうわけにはいかないの、病院の歳出を少しでも食いとめるような方向で、病院改革を進めていくというようなご答弁をされています。

この辺の答弁の真意というんですかね、その辺は、この5年でというのが、その計画を5年以内に改善するのなら、その5年で行き詰まってしまうのだから、ちょっと誤解を生むような答弁だったので、その辺の真意を町長からお伺いいたします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 もう一回言ってください。もう一回、端的に。

○議長 堀口博志 岩崎君、挙手をお願いします。岩崎君

○5番 岩崎正春 このままいくと、5年と、そういうわけにはいかないのという答弁をされていたんです。

その5年という意味がどういう意味だったのか、病院経営を改善するのか立ち直せるのか、あるいはこのままいくと財調が底をつくという意味だったのか、誤解を生むので、もう一度確認したいと思います。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 財政内容なので、総務課長に答弁させます。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 本町の財政状況につきましては、平成28年度決算において財政構造の弾力性を示す経常収支比率が92%と、前年度比3.2ポイント増となっております。

県内町村における平均が88.4%でございますので、比較で3.6%程

度高くなっております。

經常収支比率から見れば、望ましい目安とされる75から80%までは、依然として届かない状況です。

また、普通会計の未償還残高は54億3,000万円で、公債費における将来負担比率は79.7%と、前年度対比10.5%増となり、後年度の町財政運営に影響を及ぼすことが懸念されます。

一方で、先ほどのご質問の財政調整基金の残高につきましては12億4,700万円で、目標としてきました10億円を平成24年度末以降は引き続き達成しておりますが、今後、町有施設の老朽化による維持管理費の増加や公債費の負担比率を考えると、引き続き残高の確保が必要となっております。

平成29年度におきましては、普通交付税の減額等による一般財源の不足を埋めるために、財政調整基金の取り崩しを行ったため、11億円に目減りする状況となっております。

以上が財政状況でございます。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 先ほど、5年という言葉があったので、今の医療事務組合への支出が今のまま進むとというふうに解釈してもらえれば。

○議長 堀口博志 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 病院の経営については、病院議会もありますし、執行側のそれぞれの努力に期待するところですが、地域医療にとって厚生病院というのはもうかなめです。

それを支える町としては、支えるための財政支援は重点施策に入るのではないかと思われますが、先ほどの重点項目にはなかったもので、あえてここで追加して質問をさせていただきたいと思います。

人口が7,000、あるいは今後6,000人の町になるということが、もうデータ的に見えているわけですから、当然、病院の経営改革が進むまでの間は、町として財政支援をしなければならない、当然のことだと思います。

それについて、町の財政、今報告がありまして、財調もまあまあ今のところ10億以上あるという、この段階で速やかな、やはり対策を打たないと、今後さらに、町長が想定しているようなとおりになる可能性があるということ、質問を続けさせていただいたわけです。

そこで、私は何といたっても、今の下仁田町にとっては少子化問題が最大の課題だと思います。

この少子化を食いとめるには、やはり病院、医療と福祉がその下支えをするということで、重点施策の中では、特に町長にはその部分を期待するところです。

町長は私と議員同期でありますので、ちょっと良薬口に苦しというふうな意味合いで聞いていただければありがたいと思いますけれども、いろいろな部分で、町長みずから自分の方針とか思いを語ることが少なかったので、議会としても、町長の方針とか、あるいはまちづくりストーリーみたいなのをちゃんと語って、予算づけをしてもらえば、議会としてもいろんな知恵が出せると、いろんなアドバイスと言ったらおこがましいですけども、いろんな議論ができるのではないかと。

きょうの議会では、主に町長の強い思いをお尋ねしたいと思いますので、これを機会に、町長のまちづくりに対しての思いを聞かせていただきたいということで、質問を続けさせていただきます。

町民の間から、いろんな、私にもご意見をいただきます。

町がお金がないないということで、それは町民の方もわかっていると思います。

行革の観点、行革をどのように進めるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今の岩崎さんの発言の前半の部分で、財政厳しい、このままいくとどんどん財調がなくなると、そういう発言をしている中においては、やはり改革すべきものはしていく、そういう中で、それも時間をおかないで進めていくという中において、やるべきことはやっていくと、そういう意味で私は言っていたと思うんですけども。

財政厳しいから何もしない、そういうことではない発言だったと思います。一応そこのところを確認しておきますけれども。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 私が聞きたいのは、行革を進めるのか進めないのか、あるいはどういう方法でやるのか、議員もそういう審議会みたいなをつくるのか、行政改革本部みたいなをつくるのか、その方向性が私は知りたかったんです。

やはり、当然、町長が申されるように、いろんな必要な重点項目がありますし、どれ一つ無駄というものはないと思うんです。

そういう中でも、やはり人件費等、みずから身を切るところから始める必要が、私はあると思っているんですよね。

よく、隣の人口規模からいって、甘楽町等を見ると、1,000人当たりの職員の人件費も約1.9倍、町税に対する人件費の比率も約1.75倍と、これは病院とか一部事務組合の職員を除いた数値でありますけれども、やはり、下仁田町で188キロ平方と、広い地域ではあるんですが、やはりこの辺をまず着手して、見直しあるいは人員の削減、そういったものを私は進めてほしいなど、そういうふうを考えておりますけれども、町長の所見を伺いたいと思います。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 それは総合的に、もちろん考えております。

そういう中で、ただ、今の状況は、まあまあ病院に固執するわけではないんですけれども、かなり厳しい運営状況が続いているので、どうしてもそちらへ目が行きます。

そして、その中でも、社会は動いておりますから、いろんな施策打っていかねばならないし、年度が変われば新しいものというか、活性化のための手段として方策をとっていくと。

もちろん、岩崎議員の言うように、町全体の今までの流れを見れば、改革すべきものもあります。もちろん考えています。

そんな部分を、今、総務課長に説明させます。

○議長 堀口博志 岩崎正春君

○5番 岩崎正春 具体的な、もうちょっと意欲を感じる、私だけかもしれませんが、意欲を感じるような答弁をいただきたいなと思います。

もうこの目の前に重体な患者がいるわけですから、どのような手術が必要なのか、注射を打てばいいのか、手術が必要なのか、人工呼吸が必要なのか、やはり手だてが、私はもう必要な時期だと思います。

もう病院というのは、もう地域にとって本当に必要なもので、この病院が、今町民の間では不安要素となっておりますので、行革の方針を早く指示していただいて、それなりの町民にはわかるような改革を進めていただきたいと思い、この質問はこれ以上やっても、ちょっとあれなので、やめます。

何か答弁ありますか。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今、病院の問題と行革と、何か一緒にしちゃっているんだよ。

(「そうじゃない」の声あり)

○町長 原秀男 じゃ、その患者というのは何ですか。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 病院を支えていかなければならない、町は。財政支援は必要だと。

今年度も、先ほど総務課長が答弁したように、やはり前年比に比べて相当、1億何千万か多いわけでしょう。

そのためには、今の病院を円滑に支えて行くのは、下仁田町の力だけではありません。南牧の力も必要です。

ではやはり、それを支えていく、経営改善が図れる、図っていただければと思いますけれども、その間は財政支援が必要であったとすれば、町長が答弁したように、財政がもたないと懸念があるようでしたら、行革を早く進めるべきではないかと、そういうことです。

別に、病院の経営のことをどうこう、私は言っているわけではないんです。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今、それは進めています。ずっとそれはあります。

そういう中で、ただ、今の状況を、今の時点でざっくり切った場合には、どういう状況かという話でしているわけです。

方向性として、もちろん進めなければならない、もう状況です。

医療、もちろん大事です。

かといって、本当に町財政がそこまでいくということになれば、大変なことでありますから、そういう意味も含めて、大改革を進めなければならないというような感覚もある。

そういう中で発言してきたことでございます。

その辺、誤解ないように。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 進めているんだということで、それは心強いんですが、結局、数字に出る金額というのは、前年比1億3,700万円増という数字が出るわけですから、これを我々は見ても、あるいは町民が見ても判断せざるを得ないので、次はぜひ、この金額が少なくなるように、一層の努力を願いたいと思います。

押し問答になってもしょうがないので、次に移ります。

続いては、ジオパーク再認定後の課題と施策についてお尋ねいたします。

昨年11月14日、15日のジオパーク再認定ヒアリングにて、町長や関係皆様の努力が功を奏し、再認定となりました。

関係者の努力に敬意と感謝を申し上げます。

私は、このジオパークにより、下仁田町の地域資源が再確認され、町の宝

として再び光が得られるよう、町の発展や文化的な底上げにつながるという思いから、いろいろな行事に積極的に参加させていただいてまいりました。

そこで、今回の審査報告書を参考にしながら、今後のジオパークの課題と心配な点を探りたいと思います。

そこで、まず第一に、原点に帰りまして、ジオパークは下仁田町に何をもたらしたのでしょうか。改めてお尋ねしたいと思います。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 下仁田ジオパークにとりましては、岩崎議員も審議会委員として参画している、2017年3月に策定した第5次総合計画において、ジオパーク活動は教育・文化の高揚、それに位置づけられ、地域に愛着と誇りを持ち、未来を開く人を育むまちづくりを進めるとしています。

既にご承知のとおり、下仁田ジオパークは、2011年、日本ジオパークの認定を受け、2015年には条件つき再認定となりました。

その要因としては、組織体として議論が積み上げられていない、そしてガバナンスのあり方に問題があると、そういうようなことで、住民を中心とした議論がなされていないことであったとありました。

そんな中で、今回再認定となった報告書の中では、組織体制の改善がなされていて、地域住民の参加するボトムアップ型運営が行われているということが総評とされています。

また、すぐれている点として、ジオパークの運営主体を支えているジオパーク応援団、これが主役として積極的に参加していることが評価されています。

このことは、住民が参加する、住民が130人以上参加している応援団を取り巻く団体が、個人が1つの目標、個人個人が一緒になって1つの目標として、その住民活動により獲得した結果だと思っております。

人口減少に伴っている、地域の活力が失われる中の活気であったと思っております。

また、さまざまな関係機関を巻き込んだ、研究や教育の場としても活用されています。

そんな意味で、また観光面においてはジオツーリズムと、このようなことを行っているという結果が出ておると思います。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 わかりました。

それでは、再認定後、いろいろな課題が提起されたわけですが、今後何に

取り組み、またそれによって何が町にとって得られるのか、その辺を答弁をお願いします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 具体的に、教育課長に答弁させます。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 お答えいたします。

再審査を通じて感じたことは、取り組みをしている方々の熱心さと、その反面、ジオパークはよくわからないという意見も多く、離れて見ている方の多いことにも気づきました。

そのギャップを埋めていくことが今後の課題と考え、今後はより多くの方々にご協力とご理解をいただけるよう活動していく予定です。

その中心となるのは、テーマの見直しと考えています。

多くの研究者が入り、魅力ある大地がありながら、それを広くアピールするテーマづくりをすることと考えております。

アクションプランでも、地域住民がガイドとなれるような目標を掲げております。

ジオパーク推進係を中心となり、地域に出向く活動として、各種会議の機会にお時間をいただきながら、その地域の方しか知らない伝承など聞き取りを行い、地質だけ、難しいこと、それらの印象を払拭できるような活動に取り組んでいきたいと考えています。

既に地域で開催されております老人クラブの会合等に参加を始めております。

少子高齢化が進む中で、高齢者の方にも地域に誇りを持ち、活動していただける場をつくっていきたいと考えます。

また、審査結果報告にもありましたが、ジオパーク活動でも持続可能がキーワードになってきております。

持続可能なものにするためには、活動を通して経済効果を生まなければ持続できないと考えます。

ジオパークで経済活動に成功している事例等を、日本ジオパークネットワーク、ジオパーク委員会の協力を得ながら取り組んでまいります。

4年後には、また審査を受けなければなりません。

次の審査時が、認定後10年が経過することになります。

この4年間で正念場となってくるとおられますので、審査の活動のためではなく、下仁田ジオパークの将来を見つめた活動としなければなりません。

先日来庁されたジオパーク関係者から、ジオツアーの収益でガイドの運営をしている事例紹介もありましたので、他のジオパーク関係者にも協力を得ながら、地域の方向性を検討していきたいと考えます。

この4年間の活動を通して、子供たちが地域への愛着を深くし、地元に戻ってくる、下仁田ジオパークのツアーはおもしろい、ガイドの質が高い、高齢者の方々も来訪者との会話を楽しみ、生きがいとなる、そんなジオパークを目指し、交流人口の増加による経済効果も生み出せたらと考えます。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 下仁田には、ジオパーク下仁田協議会というのがありますけれども、この長は誰ですか。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 下仁田町長です。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 ジオパーク下仁田協議会の条例は、今課長の手元にありますか、ないですか、あれですか。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 済みません、条例は今持っておりません。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 この条例は、第1条冒頭に、この条例の一番要旨、趣旨がうたわれていますが、読み上げます。

この条例は、下仁田町及びその周辺におけるジオサイトの世界ジオパーク認定を目指すとともに、将来も社会・経済・文化的な発展を続け、地域社会の郷土愛の醸成を図るためとあります。

今、町長の答弁、あるいは課長の答弁にも、4年が正念場と言われていますが、世界ジオパークを目指すということではないんですか。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 お答えします。

今回の審査の時に、審査員からちょっと言われたことなんですが、世界を目指すのであれば、下仁田ジオパーク単体ではちょっと無理があるということで、広域の連携等も考えた上で、世界ジオパークについては考えてくださいという指摘をいただいております。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 その姿勢はおかしいと思いますよ。

だって、このジオパーク下仁田協議会の条例の一番目的のところに、世界

ジオパークを目指すと言っているんですから、じゃ、その指摘を受けたら、じゃ、何をすべきかということは今語らなければ、この条例違反になりますよ。

そういう姿勢を、私は非常に心配しているんです。

ジオパーク協議会にしてみても、どのくらいの、ホームページに載っていますから、見ればわかるんですけども、協議しているのか、また、中にはずっと欠席している委員もいるようですが、欠席している要因は何か、その辺を丁寧に委員の方と接触して、出席が図られるような方策をとっているかどうか、お尋ねします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 ちょっと今、その条例、もちろん私になる前の、できた条例だと思えますし、またその時、世界ジオパーク目指したかなと思うけれども、じゃ、その時やってきて、2年前、イエローカードですよ。

今、これではまずいというか、一生懸命やろうということで、住民参加でやってきたわけですよ。

ちょっと今、言っていることが、ちょっと何となくわかりにくいんですけども。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 俺は町長の言っていることがよくわかりません。

私は、書いてある条例に基づいて言っただけで、過去、2年前がどうだと言ったって、それで努力して頑張って、再認定になったわけだから、今度目指すものは、もっと高みを目指して行ってほしいという意味ですよ。

過去のことは、別にどうだらこうだと言ったって、前へ行かないじゃないですか。

まあいいです。

それで、その報告書の中で指摘されている事項で、一番喫緊のテーマ、今後どのように改善するかについて、予算の裏づけとスケジュールを明記したアクションプランの形で、今年度中に日本ジオパーク委員会に報告してくださいと明記してあります。提出できますか。

4年間のプランだと思いますが、4年後の予算を含めてプランを立てられるのでしょうか。

よろしくをお願いします。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 岩崎議員もご承知のとおりだと思うんですが、今回の

再審査に当たり、一から始めたことが、組織の見直しということを行いました。

今現在は、その組織の見直しの順番にのっとりまして、各部会で今議論をいただいております。

3月末、ジオパーク下仁田協議会の承認を得て、提出する予定となっております。

以上です。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 当然、一連の承認を得て、後は議会でも報告していただけるわけですね。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 協議会を経た上で、報告をさせていただきたいと思っております。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 11月14日、15日のジオパーク審査総評の場にも、当然町長もいらしたんですが、尾池委員長から、下仁田ジオパークはよそのことを語ることが少ないと、よそのジオパークと交流を進めてほしいという注文がありました。

この意見に対しては、どのようにお考えを、お気持ちを持ちましたでしょうか。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 尾池委員長の言われるとおり、ガイドの中で他のジオパークを語ることは少ないかもしれませんが、交流につきましては、県内2番目のジオパークになりました浅間山北麓ジオパークにつきましては、申請の当たっての助言、資料の貸し出しも行い、その後もガイド間交流を続けております。

歴史でも深くつながる筑波山地域ジオパーク、茨城県北、秩父ジオパークともガイド交流や相互視察など、交流は続けております。

以上です。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 そのとおりですね。

町の議会も、2011年5月に糸魚川ジオパークを視察した経緯もあります。

また、一昨年は、下仁田でジオパーク関東大会も開催いたしました。

ちょっとその辺は、報告書と、私もギャップがあることを感じました。

特に、茨城県北ジオパークは、認定取り消しという、初めての思いも寄らない結果でしたが、下仁田町にとって茨城、水戸市とは、古くは水戸天狗党やこんにやく乾燥技術、大子町、中島藤右衛門が考案した加工技術が南牧、下仁田町に伝わり、今日のねぎとこんにやく下仁田名産とうたわれるだけでなく、全国にこんにやく産地の不動の地位をもたらしました。

また、幕末の水戸武士の野村丑之助墓碑があるところに、水戸の梅の木が枯れたと、わざわざ水戸から植えかえに参られました。

こうしたことも含めて、まさに温故知新というべき交流について、今後、取り消しになった茨城県北ジオパークに対してどのようにアプローチをしていくのでしょうか。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 お答えします。

ジオパークにつきましては、地質だけでは語り切れません。歴史や文化も重要な要素と考えております。

岩崎議員の言われるとおり、関東近郊では水戸浪士、こんにやく製粉技術の伝承などで関係の深い茨城山地域ジオパークや茨城県北、信仰や養蚕製糸を含む産業や食文化で類似する秩父ジオパークなどの交流も重要と考えております。

下仁田戦争をテーマとしたジオパークめぐりであったり、食を通してのジオパークツアーなど、連携をとりながら取り組んでいければというふうに思っております。

また、浅間山北麓ジオパークとは、群馬県内で2つだけです。

ジオパーク同士でより連携を強めて、県行政へのジオパーク理解をも進めていくつもりです。

30年度には、群馬県庁で企画展を合同で出展すべく、今現在進めておるところでございます。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 茨城県北ジオパークは、ホームページというんですか、それを見ると、盛んに次の再認定に向けて、活動をさまざまされていると思います。

下仁田町もお世話になった市ですから、ぜひ、できる支援はしていただきたいと思っております。

続きまして、ジオ応援団の充実に向けてということで、審査では下仁田自然学校と並んでジオ応援団が大変高い評価を受けました。

この2つの活動は、再認定の大きな要因だったと言っても過言ではないと思います。

しかし、自然学校の先生も高齢化し、またジオ応援団の役員も一部が欠員のままとお聞きしております。

審査時も指摘されたが、ガイドマニュアルも十分ない状態で、団員さんはみずからガイドブックを夜遅くまで作成して、ガイドに当たっているというようなお話も聞いております。

そして、ジオガイド講座等も開いているんですけども、このジオガイド講座でガイドの補充につながっているのか、あるいは町が保有しているというガイドマニュアルが難しくないのかどうか、その辺をお尋ねします。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 岩崎さん、このジオパーク、下仁田ジオパーク、要するに本質的なもの、昨年認定を受けた時、尾池委員長が言ったように、これ、あれですね、私は確かに協議会長という立場にいるんですけども、ボトムアップ型、ともかく住民組織、これが評価されたわけ。

そういう方向でやれと、やれというかやったら、方向を向いたら、これが本質だと思うんですよね。

そういう意味では、やはり今ここで、行政主導でやるんじゃない、ジオパークは、住民からの盛り上がり、これが本来の姿だと、私は思うんですよね。

そういう意味で考えると、ちょっと今、これはこれで、いろんな組織があるわけですよ。

そこへのお話じゃないかなという感じもします。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 原則は、私も町長の考えと同じです。

ただ、サポートをしないと、ガイドマニュアルも専門用語もありますし、そういったものを単独で素人さんがつくるのは大変だということを言っているんです。これは現実です。

私もガイドの現場にも立ちますし、そのガイドさんの応援団の方の、いろいろ厳しい状況も聞いていますので、何も町がああやれこうやれと指導すると言って私はいないですよ。

そういう現実を町長も踏まえて、今発言されたんだと思いますけれども、行政としてあるべき姿がどうなのかと、今お尋ねしているわけですから、答弁してください。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男　　もちろん、それは支援、応援はしていきますよ。

岩崎さんをお願いします。

○議長 堀口博志　　岩崎君

○5番 岩崎正春　　支援はするということで、これ以上言ってもあれだから、次、時間もないので次へ行きます。

あとは、若い研究者のための環境づくり、これは自然学校の活動支援のあり方ですが、いろいろサポートしてくださっているということは承知しています。

以前は、大学の若い学生さんが、下仁田町に多様な地質を学ぶ場として来町していました。

しかし、自然史館の使い勝手がちょっと悪くて、研究などは24時間観察が必要な場合もあるわけですが、そういうことで、来町する研究者の数が少なくなっているのではないかということ、ちょっと心配しているんですけども、その点はどうでしょうか。

○議長 堀口博志　　町長

○町長 原秀男　　その件ですけれども、自然史館の設備だけの問題ですか。

それとも何か、それなりの調査データあれば示していただければ、こちらでも検討しやすいと思いますけれども。

感覚だけでは、ちょっと対応できませんよ。

○議長 堀口博志　　岩崎君

○5番 岩崎正春　　これは私の、そういう感覚です。

だから、今聞いているのは、少なくなっていないでしょうかという質問をしているんです。

大丈夫ですかと聞いているんです。

○議長 堀口博志　　教育課長

○教育課長 大河原順次郎　　お答えします。

研究成果を下仁田ジオパークにフィードバックすることを条件とし、29年度より研究に対する支援策を講じているところであります。

今現在も、早稲田大学や徳山大学などの研究フィールドとして訪れてくれております。

自然史館への宿泊につきましては、管理等の問題から宿泊はできませんが、町内の旅館、自然学校の鑑塾などに宿泊をされております。

今後も、自然学校や学術部会の協力をいただきながら、自然史館の史料の閲覧や研究に関するアドバイスなどの協力体制を図り、若い研究者について

も支援を続けていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 よろしくお願ひいたします。

続きますとは、観光開発の進捗状況ということですが、これは高速インター出口にジオや世界遺産の大きな看板があります。

道の駅へ行くと、世界遺産の町、ジオの町に来たという実感が感じるのが、やはり薄いような気がいたします。

ジオパークや世界遺産事業への推進も、先ほど答弁してくれたように、費用対効果という観点から、町民の理解を得るには、経済的効果が実感できる施策が不可欠だと考えております。

その辺はどのようなことで進めていくのでしょうか。答弁をお願いします。

○議長 堀口博志 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 お答えいたします。

下仁田町は、魅力ある山の多い下仁田町ですので、登山とあわせたツアーガイドや歴史や町並み、こんにゃく製粉や中小坂鉄山、白石工業などの近代産業を組み込んだツアーなど、魅力的なジオツアーの構築と積極的な情報発信により、下仁田町や他のジオパークからの視察を積極的に受け入れるとともに、研究団体や大学のゼミ生を含め、教育旅行の受け入れをふやし、交流人口をふやして、経済効果に結びつけたいと考えております。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 観光の具体的な事業としては、何かございますか。

○議長 堀口博志 商工観光課長

○商工観光課長 林通典 観光分野についてお答えいたします。

商工観光課におきましては、観光タクシー運行への補助制度やJR、上信電鉄と連携した駅からハイキングの開催、高速道路のサービスエリアや都市部での観光キャンペーン等、さまざまな機会においてジオパークをPRし、観光客の誘客に努めております。

さらに、道の駅内の観光案内所においても、各種問い合わせ等に連日対応し、これらによりジオパーク関連の食事メニューや商品購入等で、地域の経済に恩恵は発生しておると思っております。

観光客に喜ばれ、地域が潤い、業者やガイドもやりがいを感じるような状況になれば、当然、ジオパーク推進活動も持続すると思われれます。

そのために、商工観光課としましては、重点道の駅の認定になっている道

の駅しもにたから、DMOの登録になりました観光協会、また商工会等と連携する中で、例えばインバウンドや都市住民等へのアンケート調査結果等を生かしたPR、情報発信をして、観光客に下仁田町の魅力を伝え、お越しいただき、滞在時間をふやすこと等により、より一層の交流人口の増加と経済効果を生み出せたらと考えております。

当然、ジオパーク応援団、自然学校等、関係団体等との連携も図りながら、よりよい効果が出るように取り組みをしていきたいと考えております。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 今、答弁のように、交流人口をふやすということは、一番身近な課題で、後にやはり定住や、そういった宿泊と、そういったものを進めていただきたいと思います。

それで、ジオパーク関連は最後に、町長に辛辣な質問をさせていただきますけれども、これは私が言ったということではなくて、町民の中から、時には電話で、行き会って、メールでということでもいただくんですが、町がお金がないと、大変だということはわかると。

ですから、お金がないなら、住民の生活が最優先なので、ジオパークと世界遺産を返上すれば、約1億の予算がやりくりできると、返上したらどうかという意見をいただきます。

町長の真意はどうでしょうかということです。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今の金額合っている。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 この30年度予算書の中にある、ジオパーク推進費と歴史館費を見て、多分言ったんだと思います。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 今、前から見れば、相当抑えている予算、ジオパーク、予算の問題じゃないんですけれども、抑えた中で、先ほど言ったように、本質はやはり住民運動、ボトムアップの、これがジオパークなんですよね。

だから、財政問題と、ジオパークやるかやらないかと、それ一緒にしないほうが良いと思うんですけれども。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 私もそう思いますけれども、町民からそういう声をいただいて、説明はしているんですよ。

でも、町長から、確たる気持ちが聞きたかっただけです。

でもいいです。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 要するに、やるかやらないかとかいう問題は、これはまた全体、住民の皆さんでやってきたことで認定になったわけですから、これはまた住民との相談のことじゃないですかね。

そう思いますけれども。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 時間は、残り時間どのくらいありますか。10分くらいありますか。

○議長 堀口博志 約10分です。

○5番 岩崎正春 10分あれば十分だと思いますので、次に移ります。

いずれにしても、しっかり対応していただきたいと思いますよ。

次は、高齢ドライバーの事故が多いということについてお尋ねいたします。

下仁田町における事故の実態、免許の返納の状況等を答弁願います。

○議長 堀口博志 町長

○町長 原秀男 総務課長に答弁させます。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

初めに、高齢者の事故の実態でございますが、平成29年度中の県内の交通人身事故発生状況は、件数が1万2,745件で、前年比829件減少しております。

また、死亡者は67名で、前年比5名増、負傷者は1万6,236名で、前年比1,403人の減少です。

65歳以上の高齢者の状況ですが、3,953件で、前年比258件の減、死亡者は38名で3名増、負傷者は2,436名で、前年比188名の減となっています。

交通人身事故は、発生件数、負傷者数とも13年連続で減少していますが、死傷者数は増加いたしました。

高齢者が関係する事故は、全事故数の31%で、死傷者数は57.7%で高い比率となっています。

町の状況は、件数が9件で、前年比7件減、負傷者は5人で、前年比10人減となっております。

続きまして、免許の返納の状況でございます。

平成23年4月に、下仁田町高齢者運転免許自主返納支援補助制度を創設

し、平成28年11月には対象年齢を75歳から65歳に引き下げました。

実績でございますが、平成23年度の当初は実績はありませんでしたが、平成24年度は9人、平成25年度は12人、平成26年度は12人、平成27年度は15人、平成28年度は22人、本年度は2月末現在で28名となっています。

合計98名で、平均年齢は81.1歳となっています。

以上です。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 これは私の提案なんですけれども、今課長が報告してくれたように、高齢者の人口はふえるから、事故の数はふえるわけですよ。

ただ、事故率という観点から見れば、16歳から19歳代が傑出して多いわけです。

次に、二十から29歳、その次が80代と。

70代までは、そんなに事故率、率からいえば余り大差がない。

皆さんも、高齢者が横断歩道のないところで渡ったり、車の陰から飛び出たりという、ちょっとひやっとした経験も多いと思います。

これは、車が余りない時代に、みんな育ってきているので、その感覚がないとは限らないのかなと思っていますけれども、そこで私は、ある自治体の幹部と、視察先でこの問題を、かなりゆっくり話したんですけれども、やはり心配しているのは、高齢者は危ない、事故が多い、免許を返納したほうがいいという、一つの時代の、何か流れみたい、マスコミが朝に晩に流しますから、高齢者のモチベーションが下がってしまうということを非常に危惧しているんですよ。

それなので、地域免許みたいにして、下仁田町限定免許みたいにしてやったらどうかな。

地域で、車はもう不可欠ですから、幾らタクシー券を配っても、バスを出しても、賄い切れないところはあるんですよ。

地域免許は何でメリットがあるかというのと、下仁田町で高齢者向けの講習会をしたり、あるいは必要であれば、追突防止の装置をつける補助をしたりとか、1年に、半年に1回とか、そういう講習をすれば、認知症の発見にも早くつながるような気がするんですよ。

それで、もう十把一からげみたいに、高齢者は免許を返納すべきだという、そういう流れだけではなくて、高齢者がそれぞれの地域で活躍、張り合いを持って活躍してもらおう点では、そういった方法も一つではないのかなと思います。

ます。

当然、公安委員会の、これは管轄ですから、これは調整は大変だと思いませんけれども、これだけ高齢者の事故がクローズアップされていますので、まんざら聞く耳を持たないと決めつけないほうがいいような気がいたします。

その点について、軽自動車は特に町税の対象になっていますし、また事故でも、死亡者が多いのは先ほど報告聞いたのは歩行者も含めての、多分犠牲者というか負傷者の数だと思いますので、軽自動車を多く使用する人に対しては、さらなる安全教育を進めると、町独自の年齢層に合った教育を進めるといふ点ではいいのではないかなと思いますけれども、その辺の見解をお聞きします。

○議長 堀口博志 総務課長

○総務課長 浅川幸則 公安委員会の関係につきましては、ちょっとこちらでは答弁できませんが、安全対策の進め方ということで、ちょっとご答弁させていただきます。

町では、春から冬の年4回実施される交通安全運動期間中において、警察、安全協会等の交通関係団体の協力により、高齢者事故防止、街頭指導等を国道やスーパーマーケットの駐車場で実施して、交通安全、交通事故防止の啓発を図るとともに、高齢者運転免許証自主返納制度の周知等も行っております。

また、年間を通じて、町のホームページや広報紙での啓発を随時行っております。

高齢者の運転免許更新手続におきましては、近年の認知症等を原因とする事故発生の増加等から、事前の適性検査が義務づけられており、事故防止の対策がとられているところであります。

また、自動車メーカーにおいても、事故防止のため自動ブレーキや誤発進抑制装置等の安全対策が施された車両を販売しており、今後はこれが標準仕様となることを見込まれています。

町では、認知症予防対策として、65歳以上の方を対象に週2回、気楽に楽しくできるコグニサイズという認知症予防運動を実施しております。

コグニサイズとは、コグニション（認知）とエクササイズ（運動）を組み合わせた造語で、具体的にはしりとりをしながら足踏みを行うなど、頭を働かせる認知課題と体を使う運動課題を両方同時に行うことで、心身の機能を効率的に上げていくプログラムとなっております。

さらに、いきいき健康教室を各地区の集会所等で月1回開催し、ふだんの

生活で身についた体の癖を取り、軽い運動やマッサージを行うことで、腰痛や膝痛を予防し、転ばない足腰と健康な体づくりを目指しています。

心と体を健康に保ち、健康寿命を伸ばす取り組みを実施しております。

以上でございます。

○議長 堀口博志 岩崎君

○5番 岩崎正春 先ほども言いましたように、車というのは、我々の世代を含めて一つのステータスみたいなもので、それを何か悪の根源みたいに言われると張り合いが悪いので、その辺は高齢者も活躍していただけるように、サポートをお願いいたします。

それで、最後に町長にお礼を申し上げます。

いろいろ厳しい質問をいただきましたが、久しぶりというか、初めてというか、町長もたくさん答弁していただきまして、納得はする部分もあるし、しない部分もありました。

当然、この部分はフォローが、私一人だけではないですけれども、する必要があるなどか、いろいろ感じ取ることができました。

きょうは大変真摯な答弁、ありがとうございました。

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長 堀口博志 以上で、一般質問を終結いたします。

○議長 堀口博志 本日の日程は、全部終了いたしましたので、これにて散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

散 会 平成30年3月6日 午前11時08分